

一本の生灘

「灘」とは、東は武庫川河口より西は旧生田川(現在の中央区税関線・フラワールード)の近くまでのことで、古くは「灘目」といわれました。この地域では、江戸時代中期(十八世紀以降)に入り、海岸沿いに酒造地域(後の灘五郷)が形成されました。神戸市内では、五郷のうち浜街道沿いに魚崎郷・御影郷(東灘区)、西郷(灘区)があります。十九世紀には江戸市場を独占したといわれ、現在でも日本一の清酒生産量を誇っています。灘の酒造業が発展した理由には、宮水をはじめとして数多くあげられますが、その中の一つに六甲山系の急流を利用した「水車」の存在があります。

酒造業が盛んになる前、水車はそうめんの原料となる小麦粉や菜種油づくりに利用してきましましたが、精米に利用したのは灘が初めてといわれています。これにより、精米技術が向上し、酒の大量生産を可能にしたのです。この水車は、江戸時代の旅人の目にも印象に残ったのか、当時の旅行ガイドといえる「名所図会」にもたくさん描かれています。また、西国浜街道沿いには酒蔵だけでなく、樽屋、竹屋などが建ち並んでいたといえます。

震災により蔵などに大きな被害をうけましたが、冬の新酒の仕込みシーズンには、よい香りがまちにあふれています。



1950年頃の西郷。左側に流れるのが都賀川。海岸近くに酒蔵の屋根が続く。(沢の鶴資料館蔵)

主な見どころ

摩耶山への道標
「右、まや山みちと書かれている。別称「幕の宮」と称えられ安産祈願として信仰されている徳井神社の境内にある。

東明八幡神社
旧東明村(御影塚町)の氏神八幡神社で、祭神は応神天皇。境内東方に神功皇后伝説にまつわる「武内の松」と称する古木の株がある。1月18・19日厄除祭、5月神幸祭・地車祭、9月22日に例祭がある。

六甲八幡神社
祭神は応神天皇、天照大神、春日大神、由緒は諸説あるが、社伝によれば平清盛が福原遷都した治承4年(1180)に京都右清水八幡宮を勧請したことに始まる。1月18・19日には厄除大祭が行われる。

徳川道の道標
「右、まやみち 左、ひゃつ」と書かれている。徳川道 P.19(参照)関係の古文書「徳原より漆山迄道軒数控」に記されている道標。長く六甲八幡神社の正門前にあつたが、南福寺地蔵尊の敷地内に移された。

神前の大楠
春日神社の境内にある推定樹齢800〜900年の楠の大木。「春日の楠」として県天然記念物に指定されている。

妙善寺
正保年間(1644〜1648)に開かれた本尊は阿彌陀如来。震災により本堂は全壊したが、平成12年に再建。境内に樹齢100年を経た「そてつ」がある。

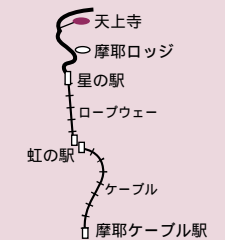
若宮神社
祭神は応神天皇、迦具牟智神、天照皇大神。昔波打ち際であった新在家で、延宝6年(1678)波間に漂う小箱の中にあつた八幡宮と権現様を祀つたのが始まりといわれる。10月17日に近い土日、秋祭がある。

船寺神社
祭神は応神天皇、天照大神、神功皇后が三韓に向かう際に船を休めたことにちなみ、永保2年(1082)に小さな祠が建てられたのが始まりである。

住吉神社
敏馬神社御旅所として鎮座。御神体は天和年間(1681)に大石村の海中より御出現され、社殿を造営し奉斎したと伝えられる。境内に無村の石碑あり。5月5日に例大祭、10月体育の日に近い土日曜に秋祭・神輿の渡御がある。

西求女塚古墳
処女塚伝説のある古墳。4世紀前半の前方後方墳。平成5年の発掘調査で、三角縁神獣鏡、さんかくぶちしんじゅつきょう(な)と重要文化財級の遺物が出土。

酒蔵関連の観光施設は54ページ参照



三宮、阪急六甲駅、JR六甲道駅より市バス18系統に乗車

信仰の山「摩耶山」

古くからの霊山であり、摂津・河内・和泉など旧八カ国が展望できるため八州嶺ともいわれ、多くの旅人が安全祈願と観光に訪れたという摩耶山。ここには、安産祈願の寺として知られる摩耶山天上寺があります。「摂津名所図会」でも称賛され、摂津の国で一番名高い寺といわれたほどです。

昔は、険しい山をぬうように続く参道を苦勞しながら登つたといわれますが、現在では、震災により休止していた摩耶ケーブル、ロープウェイが平成13年3月に再開され、気軽に訪れることができるようになりました。

